

事務事業 No./名称	<input checked="" type="checkbox"/> サービス部門 教育-31 相談室事業 <input type="checkbox"/> 支援部門										
主管課	教育センター	関連課									
分野名	学校教育										
目標 (目標値)	不登校・いじめなどの問題解決に向け、諸機関と連携を図った相談支援体制を確立し、さらなる充実を目指す。										
人口等のデータ	データ区分	25年度	24年度	23年度	備考						
	人口	177,895人	177,224人	177,204人	・各年4月1日 (住民基本台帳)						
	世帯数	80,295世帯	79,669世帯	79,217世帯							
	事業の対象者数	2685人	2096人	2195人							
事業費(千円)	19,344	18,776	18,034								
運営資源状況	(国・県)			8,694							
	(負担金等)	2	1	1							
	(一般財源)	19,342	18,775	9,339							
	人員配置数	2.9人	2.9人	2.9人							
	人件費(千円)	22,464	23,774	26,005							
	協働のパートナー										
	事務事業 運営経費	総事業費(千円)	41,808	42,550	44,039						
	市民1人当りの経費(円)	235	240	249							
	対象者1人当りの経費(円)	15,571	20,301	20,063							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒	平塚市	藤沢市	逗子市	茅ヶ崎市	小田原市	伊勢原市	座間市	三浦市		
	実施状況と担当課	○	○	○	○	○	○	○	○		
	相談事業担当	子ども教育相談C	学校教育相談C	教育研究所	教育C	教育研究所	教育C	教育研究所	学校教育課		
	教育支援事業担当	子ども教育相談C	学校教育相談C	教育研究所	教育C	教育研究所	教育C	教育研究所	学校教育課		
指標	評価	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終年度(27年度)				
目標	○	目標値	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施			
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	前年度に比し質の高い相談支援を実施した	前年度に比し質の高い相談支援を実施した	スクールソーシャルワーカーを配置し、より質の高い相談支援を実施した	前年度に比し質の高い相談支援を実施した					

中事業に含まれる小事業の方向性(⇒個別事業の概要は裏面)

(千円)

H25小事業名	H25決算値	H26小事業名	H26予算額	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止						
相談室事業	1,204	相談室事業	19,371	今後の方向性	A	理由・手法	児童生徒の抱える問題は、多様化、深刻化の傾向にあるため、専門的な相談支援体制は今後ますます充実させていく必要がある。			
相談指導事業	12,019									
教育支援教室事業	6,121									
				今後の方向性		理由・手法				
				今後の方向性		理由・手法				

中事業の評価(事務事業の課題、取組状況、今後の方向性)

H25年度の課題	相談者の問題にきめ細かく対応するため、教育相談員、スクールソーシャルワーカー等の配置時間数を増加するなど、支援体制を強化する。									
課題解決のための取組	新たに「いじめ相談ダイヤル」を設置し、いじめの早期発見早期解決に努めた。、スクールソーシャルワーカーの配置を年間48日から72日に増やすことができた。学校、家庭、相談室、教育支援教室が連携し丁寧な対応による支援を心がけた。							取組の結果	□解決 ■未解決	
未解決の課題	相談機能のさらなる充実と質の向上を目指す。各機関との連携強化やケース会議の内容の充実。教育相談員、スクールソーシャルワーカー等の配置時間の増加。									
中事業の評価	適切=○要改善=△(2面「評価の視点」を参照)				➡	①効率性 ○	②妥当性 ○	③有効性 ○	④公平性 ○	
今後の方向性 (課題解決に向けた取組・H26予算への反映)	相談室における相談件数は増加傾向にあり、複雑、多様化する課題に対応することや、きめ細かな相談体制を作り上げて行く必要がある。教育相談員、スクールソーシャルワーカー、心のふれあい相談員等の配置時間の増加をめざすことや、連携のとれた支援をするためのケース会議の充実等、相談機能のさらなる充実と質の向上に努めていく。							➡	A	
※□事業完了										

評価者名

教育センター所長

相田 良一

(2面) 小事業・個別事業の評価

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

(単位:千円)

小事業名	事業概要				【小事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	
相談室事業	教育センター相談室の維持管理				○	○	○	○	
	主な個別事業	ザイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
		1067	消耗品費	70	82	①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
		1067	光熱水費	186	89	○	○	○	○
		1067	空調機修繕料	464	738	○	○	○	○
		1067	換気扇修繕料		41	○	○	○	○
		1067	消防用設備点検手数料	64	64	○	○	○	○
		1067	機械警備委託料	78	78	○	○	○	○
1067	施設維持管理等委託料	113	112	○	○	○	○		
※□	事業完了								
相談指導事業	電話・面接・訪問による相談支援業務の実施				○	○	○	○	
	主な個別事業	ザイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
		1184	教育相談員報酬5人	6,240	6,240	①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
		1184	心のふれあい相談員謝礼	2,192	2,192	○	○	○	○
		1184	スーパーバイザー等謝礼	240	280	○	○	○	○
		1184	メンタルフレンド謝礼	80	80	○	○	○	○
		1184	精神科医師相談謝礼	40	40	○	○	○	○
		1184	電信料	400	369	○	○	○	○
		1184	心のふれあい相談員傷害保険等保険料	38	36	○	○	○	○
		1267	教育相談員(訪問相談員)報酬1人	624	624	○	○	○	○
		1267	スクールソーシャルワーカー報酬1人	1,764	1,764	○	○	○	○
1184・1267	教育相談員等費用弁償	614	394	○	○	○	○		
※□	事業完了								
教育支援教室事業	集団生活への適応・基礎学力の補充等教育支援の実施				○	○	○	○	
	主な個別事業	ザイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
		1185	教育支援員報酬3人	5,616	5,616	①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
		1185	教育支援員費用弁償	135	295	○	○	○	○
		1185	消耗品費	154	152	○	○	○	○
		1185	電信料	78	47	○	○	○	○
1185	校外学習施設入園料	16	11	○	○	○	○		
※□	事業完了								
小事業名	事業概要				【小事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	
主な個別事業	ザイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	
※□	事業完了								
小事業名	事業概要				【小事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	
主な個別事業	ザイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	
※□	事業完了								